

防災歳時記 (52)

—初夏の空は白っぽく見える—

NHK 放送用語委員会専門委員

元 気象庁天気相談所長

宮澤 清治

さわやかな五月晴れ

初夏 5 月は気持ちのよい穏やかな季節である。快適だなあと感じるのは着衣や作業量により異なるが、気温が 18~21℃、湿度が 40~70%といわれる。東京の 5 月の気温は、平均して 18.7℃、湿度 66%であるから、5 月は 1 年のうちで一番快適といえる。

「五月晴れ」とは、5 月のすがすがしい晴れのこと。この言葉は江戸時代からあり、もともとは旧暦 5 月の晴天、つまり五月雨(梅雨)の合間の晴れを指していた。

ところが昭和の初めごろから、いまの暦の 5 月の晴れをいうようになった。誤用の一般化である。

最近は「五月晴れ」の説明として、「梅雨の晴れ間」「5 月の青空」の両方を載せている辞書も増えてきた。旧暦が生活の実感から遠くなり、言葉の元の意味が忘れられてしまう日が、いずれ来るだろう。

かつてテレビで「さわやかな五月晴れ」と天気解説をやったところ、俳人から「さわやか」は秋の季語だから初夏に使うのはおかしいとの指摘があった。

いまは、一般には「さわやか」は季節に関

係なく使われるが、抵抗感をもつ人がいる限りは、初夏のころには「すがすがしい…」「気持ちのいい…」などと言い換えてもよいだろう。

5 月は晴天が必ずしも多いわけではないが、晴天が続くことに特徴がある。秋晴れは女(男?)心と似て変わりやすい。

秋晴れの空は青く澄んで見える。秋は空気が冷えるので対流が起こりにくいので、大気中のゴミやチリが落ちてしまうから澄む。なぜ空は青く見えるのだろうか。

太陽の光線は、虹のときに見られるように 7 色の光からできている。紫・藍(あい)・青・緑・黄・橙(だいだい)・赤で、この中で

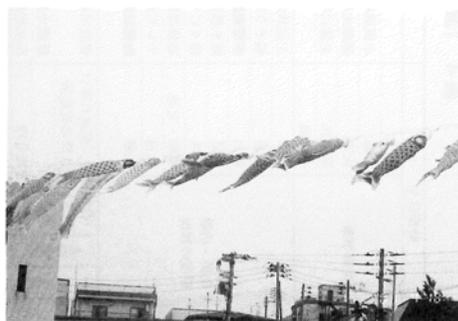


写真 1 初夏の空にこいのぼり
(新潟県小千谷市)

紫に近いほど光の波長が短く、赤に近いほど波長が長い。太陽の光が空気中を進み空気分子にあたると、短い波長の光線ほど散乱の度合いが大きい(レイリーの法則)。つまり、天空は波長の短い紫や青い散乱光に満たされるので、青く見える。

五月晴れの空は白っぽく見える。初夏は日射が強く対流も盛んになるので、空にはほこりやチリがたくさん浮かぶ。空気分子に比べて粒の大きなチリに太陽の光があたると、光の波長に関係なく、散乱するから空が白っぽく見える。

光化学スモッグが多発している

昨年(2007年)5月9日に、九州北部から関東まで20都府県以上で光化学スモッグが観測された。

光化学スモッグは、光化学オキシダント(主成分はオゾン)が主な原因だ。自動車や工場が出す窒素酸化物などの大気汚染物質が日光を浴びて化学反応を起こして生じる。5月9日の光化学スモッグは、中国大陸で発生したオゾンが主原因らしく、それが西風で運ばれてきた様子がシミュレーションで再現された。

中国からの「越境汚染」の可能性があると研究者は語った。初夏の快適な陽気の下で、目やのどに痛みを訴えたり、吐き気を催したりする人が増えては困る。

気象庁0Bの小冊子「気象旧友会たより(07年7月31日号)」にこんな記事があった。

「2007年5月8日に山口県から熊本県にかけての広い範囲に、光化学スモッグ注意

報が出された。9日も続き、北九州や福岡市では11年ぶりのことだった。

1 昨年(2007年)から石油ファンヒーター、エアコン、扇風機のモーターに粘着力のある細菌を吸着して相次いで焼損した。眼下の渋滞エリアから車の排気ガスが上昇し、大陸からは重金属などで汚染された空気が飛来して、海拔70mの逆転層にあるわが家を直撃しているらしい。周囲のコンクリートブロックからはセメントが白濁して溶け出し、野菜の畑の葉ものも白濁して植え替えた。(5月15日) (諸富敏郎氏=福岡市)。



写真2 山にかかる積雲(長野県千曲市)

車からの排気ガスや大陸からの汚染された空気が、住宅の諸設備や農作物に被害を及ぼしている。なお、文中の逆転層とはこう意味だ。気温は高度とともに低下するのが普通だが、ときには上空にいくにつれて高くなる層がある。この層が逆転層で、逆転層の上部には汚染物質がたまり、大気汚染や視程障害を起こしやすい。

中国から飛んできた黄砂は、洗濯物や車を汚したり、飛行機が飛べなくなったりする。黄砂は春先の風物詩で5月ぐらいまでが多いが、光化学スモッグはこれから夏にかけてが本番だ。